

(1) あおもり環境公共推進基本方針

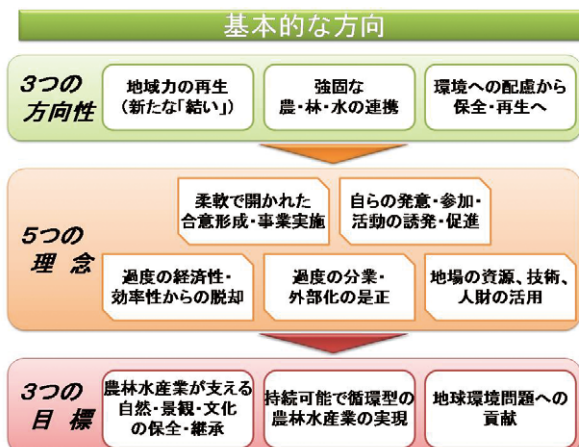
農山漁村では、自立した農林水産業が営まれ、地域コミュニティが存続することによって、豊かな自然や美しい景観、伝統的な風習や文化など、かけがえのない地域資源を将来に引き継いでいくことが可能となります。

このため、青森県では、“農林水産業を支えることは地域の環境を守ることにつながる”との観点から、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境などの整備を行う公共事業を「環境公共」と位置付け、推進しています。

平成20年2月に作成した「あおもり環境公共推進基本方針」では、「環境公共」の実施に当たって、農林漁業者をはじめ、地域住民やNPO、企業、行政など多様な主体が共有すべき事項として、3つの方向性、5つの理念、3つの目標を示しています。



「環境公共」の概念



「環境公共」の基本的方向



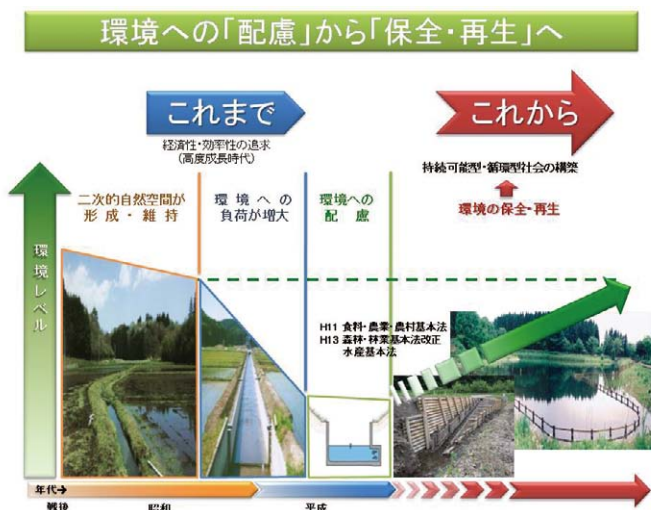
「環境公共」の基本的方向
(地域力の再生 (新たな「結い」))

- 「環境公共」の実施を契機とし、公共事業のプロセスに、農林漁業者はもとより、地域の人々などの参加を促進
- 自ら行えることは自ら実施していくことにより、地域力の再生（新たな「結い」）を実現



- 農業・林業・水産業の各分野の取組を、より強固に連携して実施
- 農・林・水の連携強化により、循環型で持続可能な農林水産業が実現され、安全・安心な食料生産が可能

「環境公共」の基本的方向
(強固な農・林・水の連携)



- 農林水産業の生産性を高めるため、その基盤を整備しつつ、生物多様性などの観点から環境を保全・再生
- これまでの環境への配慮に加え、可能な限り環境を保全・再生

「環境公共」の基本的方向
(環境への配慮から保全・再生へ)



- 「環境公共」の実施に当たっては、多様な価値観を持つ人々が、事業の各段階に参加できるようなシステムを構築
- 従来の事業化に必要な手続きに加え、事業構想の策定や地区環境公共推進協議会の設立などの新たな手続きや体制を追加

「環境公共」の実施手法

★「環境公共」ホームページ：<https://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

(2)「環境公共」の取組事例

～ 農業・農村の魅力を子供たちへ ～

(アグリタプコピア地区、田子町)

令和3年8月5日、町の全域を対象にアグリタプコピア地区中山間地域総合整備事業を実施中の田子町では、農業・農村の魅力を地元の子供たちへ伝えることを目的に「たっこ魅力探検隊」を開催しました。当日は、町内3つの小学校から6年生21名が参加し、県民局や田子町土地改良区などの協力を得ながら、原・飯豊地区のほ場整備事業や「環境公共」等について学習しました。この様子は、同町のケーブルテレビや広報誌でも紹介され、子供たちは自分が暮らしている町の魅力を再認識していました。

田子町では、町の未来を担う子供たちのため、今後もこの活動を継続していくこととしています。



ほ場整備事業の学習



用水路の流速測定



広報たっこ 10月号表紙

～ 地域の自然環境を守る ～

(小田川南部地区、五所川原市)

令和3年7月2日、農業水利施設保全合理化事業を実施中の小田川南部地区（五所川原市）では、多面的機能支払交付金の活動組織やいずみ小学校、旧十川漁業協同組合等が構成員となっている飯詰地区環境公共推進協議会主催による生き物調査を実施しました。

当日は、いずみ小学校の4年生14名が参加し、飯詰川の水質やどのような生き物が生息しているかなどを学習しました。

本協議会では、子どもたちが身近な自然環境に触れ、それを守っていくことの大切さを学んでもらうため、今後も、この活動を継続していくこととしています。



生き物調査



水質調査



記念撮影

(3)「環境公共」の情報発信

青森県の将来を担う子どもたち、消費者であるその親たちを対象に、平成29年度から環境公共推進プロジェクトとして、農・林・水・畜連携のもと、各地域県民局で「食」や「農」に関する体験学習を実施しています。

令和3年度は新型コロナの影響により、中南地域では中止となりましたが、それ以外の地域については、規模を縮小するなど工夫しながら実施しました。



〈R3年度環境公共推進プロジェクト一覧〉

番号	開催日	開催場所	参加者	番号	開催日	開催場所	参加者
①	6/23(水)	青森市	18名	②	8/26(木)	新郷村	13名
《ふるさと水土里ふれあいの旅 2021》				《緑の少年団ミニ森林教室》			
・農業水利施設の見学 ・生き物観察会 ・環境公共の学習等 				・木工体験 ・環境公共の学習等 			
③	10/21(木)	中泊町	25名	④	10/28(木)	七戸町	51名
《「山川海の恵みに感謝！」水と大地の探検隊》				《農業水利施設の学習会》			
・芦野頭首工見学 ・自動給水栓見学 ・生き物観察 ・山・川・海を繋ぐ水循環の学習 				・天間ダム、早川用水路の見学 ・環境公共の学習等 			
⑤	7/27(火)	むつ市	27名	 地域づくりの新しいかたち 環境公共 環境に貢献する農林水産公共事業			
《緑の少年団交流集会》							
・森林クイズ ・木工体験 ・環境公共の学習等 							

(4)「環境公共」を支える省力化技術

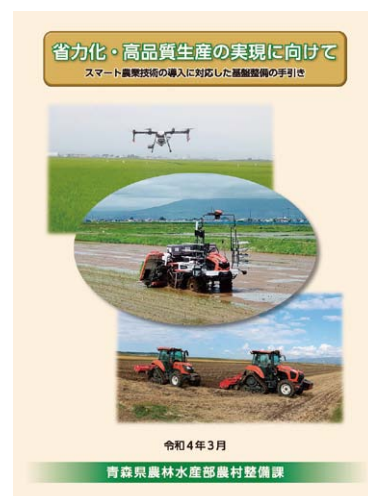
スマート農業技術の導入に対応した基盤整備の手引きについて(R2～R3)

青森県の基幹的農業従事者数は、平成27年からの5年間で約2割減少し、そのうち65歳以上が約6割以上を占めるなど、人口減少と高齢化の進行が顕著であり、労働力不足への対応が喫緊の課題となっています。

このような中、農作業の負担を軽減するとともに、限られた作付け期間の中で、一人当たりの作業可能面積を拡大し、安全かつ高精度の農作業が可能となる自動走行農機のほか、自動水管理システムやドローンなどの様々なスマート農業技術が各種実証試験を経て、本格的な実用段階を迎えつつあります。

これら先端技術の導入、利用を促進するとともに、その能力を最大限に発揮できるよう、スマート農業技術に対応した基盤整備を推進していくことが重要です。

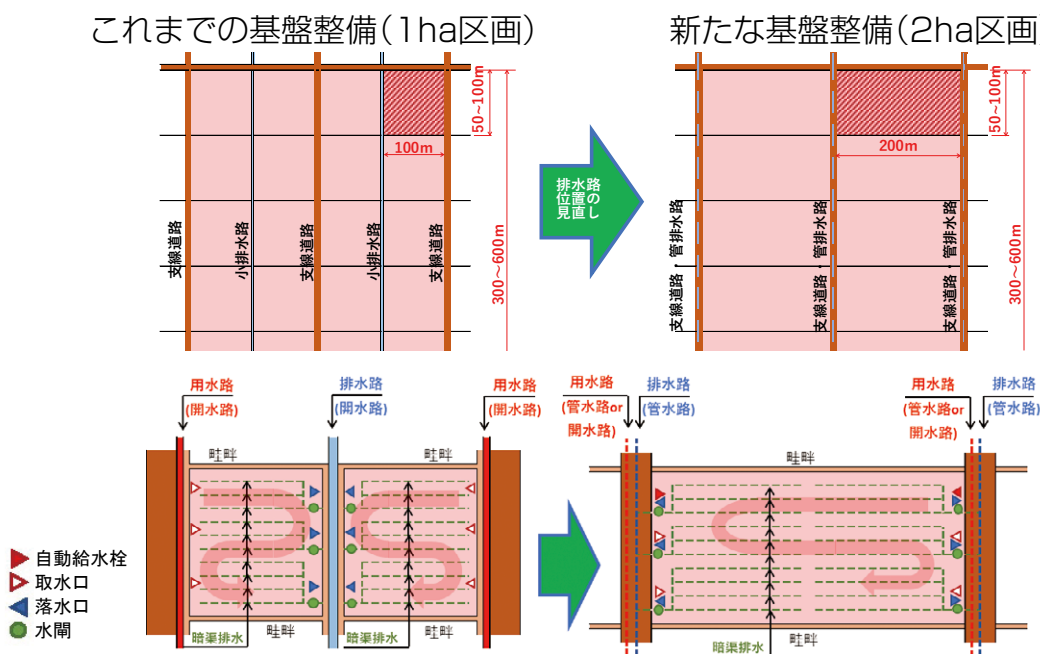
本手引きは、スマート農業技術の種類とその効果を取りまとめるとともに、水田地域におけるスマート農業技術の導入に対応した新たな基盤整備（2ha区画）とその省力化効果などについて紹介しています。



作成した手引き

○新たな基盤整備（2ha区画）の特徴

- ・草刈り等の維持管理作業を省力化するため、排水路を管路化する。
- ・水管理にかかる作業性を向上するため、両側に道路を配置し、取水口や落水口、水閘を道路側の一箇所にまとめる。
- ・ターン回数を削減し作業効率向上のため、長辺長を100mから200mに拡大する。
- ・更なる大区画化を可能にするため、隣り合った耕区を均平区とする。



本パンフレットは農村整備課ホームページで公開しています。

★農村整備課ホームページ： <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/smart-agri.html>

